

豊岡市基本構想(答申案)

もくじ

基本構想	1
第1章 まちづくりの長期的視点	2
1 まちづくりの長期目標ーいのちへの共感に満ちたまち	2
2 克服すべき重要課題と適応すべき社会潮流	3
第2章 基本構想の位置づけ	4
第3章 めざすまちの将来像ー基本構想の戦略目的ー	5
基本構想における戦略体系図	6
第4章 まちの将来像実現に向けた基本姿勢	7
第5章 小さな世界都市の実現に向けた主要手段(達成したい状態)	8
1 自然との共生が徹底されている	8
2 地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、受け継がれている	9
3 優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる	10
4 多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている	11
5 内発型の地域産業がすくすくと育っている	12
6 子どもたちが豊岡で世界と出会い、地域への愛着を育んでいる	13
第6章 まちづくりの進め方	14
1 対話による新たな価値の創造ーともにまちを創るー	14
2 政策の戦略的推進	14
第7章 市民の暮らしを支える施策の体系	15

基本構想

第1章 まちづくりの長期的視点

1 まちづくりの長期目標—いのちへの共感に満ちたまち

豊岡市では、平成24年（2012年）、「豊岡市いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」を制定しました。この条例は、次の三つの視点に立って、まちづくりの基本的な柱や長期目標を定めています。

いのちを大切にすること

命は限られています。そのことに思いが至れば、命の大切さに気づき、自らの命のみならず他の命を尊重する態度が生まれてくるはずです。同時に、そのかけがえのない命を健やかに、かつ悔いなく全うしたいという願いと挑戦が生まれてくるはずです。

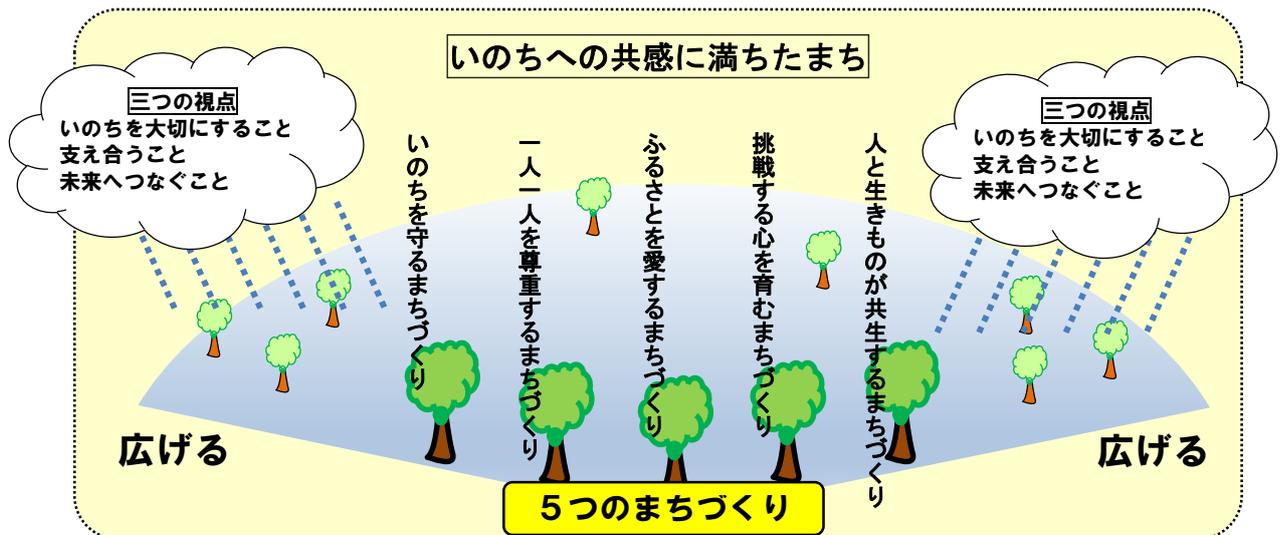
支え合うこと

命は支え合っています。そのことに思いが至れば、他の命に対する感謝が生まれ、自分もまた他の命のために貢献をしようという気持ちが生まれてくるはずです。

未来へつなぐこと

命は他の命とつながっています。遺伝と進化によるそのことに思いが至れば、他の命に対する謙虚さとそのつながりを未来へ引き継ぐ責任感が生まれてくるはずです。

条例では、以上の視点をまちづくりの根幹に据え、①いのちを守るまちづくり、②一人一人を尊重するまちづくり、③ふるさとを愛するまちづくり、④挑戦する心を育むまちづくり、⑤人と生きものが共生するまちづくりを進め、「いのちへの共感に満ちたまち」を実現することを豊岡市の長期目標として定めています。



2 克服すべき重要課題と適応すべき社会潮流

まちづくりの長期目標である「いのちへの共感に満ちたまち」を実現するためには、阻害要因となる重要課題を克服するとともに、大きな社会潮流に着実に適応していくことが不可欠です。克服又は適応すべき主な課題や社会潮流としては、次のようなものが考えられます。

(1) 災害の大規模化と頻発化

我が国では、平成 23 年（2011 年）の東日本大震災、平成 28 年（2016 年）の熊本地震など大規模地震が相次ぎ、近い将来には、南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震の発生が予想されています。

本市においても、最大震度 6 強の「日本海沿岸地震」の発生が想定されています。

また、近年、大規模な水害や土砂災害等が増加する傾向にあります。

災害による被害を最小限に抑えるためには、ハード整備のみならず、自然をより深く理解し、情報収集・伝達能力の向上など、ソフト面の充実を図る必要があります。

(2) 地球環境問題の深刻化

地球温暖化の進行により、気温や海水面の上昇をはじめ、異常気象の発生、生態系や農作物への影響など、深刻な事態をもたらすことが予測されています。生物多様性の危機も進行しています。

私たちは、再生可能エネルギーの活用、省資源・省エネルギー化、生物多様性の保全、自然環境に適合したライフスタイルの確立等を積極的に進め、持続可能な社会を構築する必要があります。

(3) 本格的な人口減少社会の到来

我が国の総人口は、平成 20 年（2008 年）の 1 億 2,808 万人をピークに減少しており、2060 年には 8,674 万人となる見込みで、本格的な人口減少社会を迎えています。

本市においても、**豊岡市人口ビジョンによれば、2010 年に 85,592 人であった人口が、2040 年に 57,608 人、2060 年に 38,044 人まで減少すると予測しています。**

少子高齢化とともに進む人口減少は、地域コミュニティの崩壊、労働力の減少、経済活動の縮小や地域活力の低下、財政の危機など、さまざまな問題を引き起こし、まちの存続をも脅かす深刻な課題となっています。

私たちは、人口減少の要因そのものに手を付け、人口減少トレンドを緩和するとともに、それでもなお進む人口減少下にあっても、**まちの活力を維持するため、地方創生総合戦略**を果敢に進めていく必要があります。

(4) グローバル化のさらなる進展

交通や情報通信手段の高度化により、人・モノ・カネ・情報等の移動が地球規模で活発化し、経済活動にとどまらず、社会活動や市民生活など幅広い分野でグローバル化が急速に進んでいます。

その中で、地域経済の活力をどのように維持していくのか、国籍・民族・宗教・文化等を異にする人々との共生をどのように実現していくのか、とりわけ多様性の渦の中で生きていくことになる子どもたちをどのように育てていくのかなど、さまざまな対応が求められています。

(5) 人工知能（AI）等の台頭による社会構造と人間の役割の劇的変化

人工知能（AI）やロボット等の台頭は、労働力不足の改善、利便性・快適性や生産性等の飛躍的な向上をもたらす半面、人間が果たすべき役割を急激かつ劇的に変化させ、経済効率上「不要な職種」を大量に発生させ、多くの人々を社会から疎外してしまう可能性をはらんでいます。

人工知能やロボット等と共存し、かつ一人一人が「取り換え不可能」な存在として自らの存在意義を実感できる社会のあり方を探り、実現していかなければなりません。

第2章 基本構想の位置づけ

市政の最大の任務は、人々の暮らしを支えることです。そのために解決すべき課題は多岐にわたり、市政は総合的に行うべきものであることは言うまでもありません。

そのような観点から、基本構想・基本計画・実施計画からなる従来の総合計画は、防災、健康、福祉等、個々の課題と対応策について網羅的に記載してきました。そのため、総合性を担保できる反面、中長期的なまちの将来像とそれを実現するための戦略（シナリオ）が明確に見えないという側面がありました。

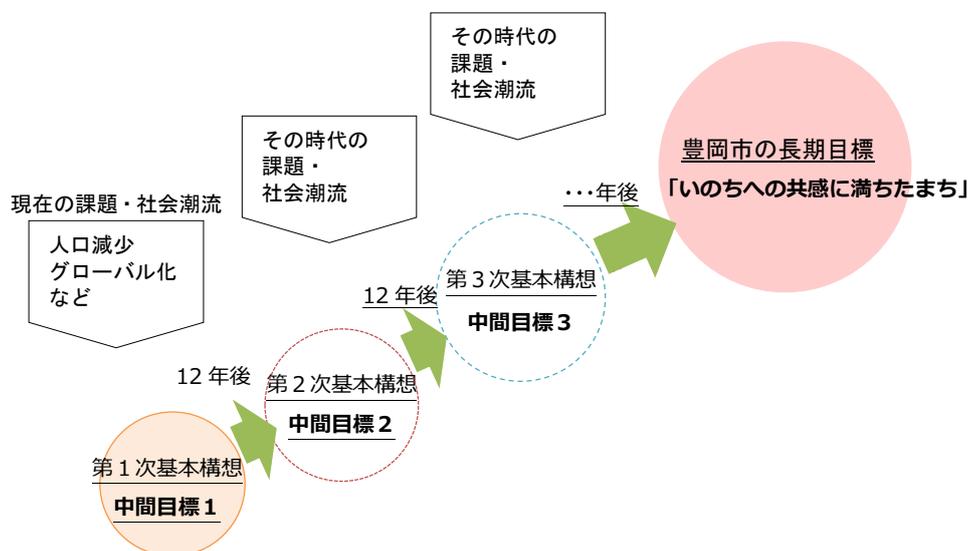
市政の大半は、総合計画への記載の有無に関わらず、個々の法令や計画等に基づいて行われており、各分野の新たな課題も、その中で対応を検討することが可能です。

他方で、長期目標を達成するためには、進むべき道を自ら設定し、戦略的にまちづくりを進めていく必要があります。

そこで、この基本構想では、長期目標達成に向け、当面12年間の基本戦略（シナリオ）、すなわち豊岡市が全体としてどこをどのようにめざして進むべきかについて重点的に記載することとします（「豊岡市基本構想及び市政経営方針に関する条例（以下、「条例」という。）」）。

前章に記載した重要課題を克服し、社会潮流に適応しつつ、長期目標である「いのちへの共感に満ちたまち」を実現するためには、適切な中間目標を定め達成する必要があります。その中間目標をこの基本構想における戦略目的（まちの将来像）として設定し、その戦略目的達成のために最も有効と考えられる基本的手段を定めることとします。

併せて、市政の総合性を担保するため、市政全分野の施策体系についても付記することとします（条例第7条）。



第3章 めざすまちの将来像—基本構想の戦略目的—

豊岡市は、これまで「小さな世界都市—Local & Global City」の実現を旗印に市政を進め、急増するインバウンド（訪日外国人旅行者）、城崎国際アートセンターに世界中からやってくるアーティスト、世界から注目を集めるコウノトリの野生復帰等々、一定の成果を挙げてきました。

「小さな世界都市」とは、「人口規模は小さくても、世界の人々から尊敬され、尊重されるまち」を意味します。

地方から大都市への人口流出の背景に、社会的・経済的・文化的に「豊かな都市と貧しい地方」という非常に強いイメージがあり、「豊かな都市」へと人々が流れていくのだと考えられています。

「小さな世界都市」は、そのイメージに基づく価値の序列を、世界で輝くことを通じて壊していこうとする取り組みです。

その取り組みは、地域の資源を磨けば小さくても世界で輝くことができる、という考えに基づくものでした。しかし、「世界で輝くまちになるためには何が必要か？」と考えてみると、第1章に記載した重要課題を克服し、社会潮流に適応することなしに実現することは不可能であり、それが実現できれば、確実に世界で輝くまちになることができます。

「小さな世界都市」をめざす方向は、長期目標のめざす方向と一致しています。

長期目標を達成するためのシナリオとしては、さまざまな選択肢が考えられますが、これまで豊岡市が続けてきた努力と成果を踏まえると、「小さな世界都市」の戦略は、これからの豊岡市にとって効果的な戦略と考えます。

そのため、この基本構想におけるめざすまちの将来像（戦略目的）を「小さな世界都市—Local & Global City」と定めます。

めざすまちの将来像（戦略目的）とは、長期目標をめざしつつ、これからの12年間において豊岡市が進むべき中間目標として示すものです。

めざすまちの将来像
小さな世界都市 – Local & Global City –
 豊岡に深く根差し、世界で輝くまち

【小さな世界都市を実現するために達成すべき状態】

- 1 自然との共生が徹底されている。
- 2 地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、受け継がれている。
- 3 優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる。
- 4 多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている。
- 5 内発型の地域産業がすくすくと育っている。
- 6 子どもたちが豊岡で世界と出会い、地域への愛着を育んでいる。

【基本構想における戦略体系図】

上位目的（長期目標）	いのちへの共感に満ちたまち （イメージ…みんなが幸せを感じられるまちになっている）
戦略目的（中間目標）	小さな世界都市 - Local&Global City - ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から 尊敬され、尊重されるまち
主要手段 1	自然との共生が徹底されている
0101	災害に備え、地域の防災力が 高まっている
0102	自然と折り合う暮らしがまちに根付いている
0103	環境と経済の共鳴が広がっている
主要手段 2	地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、受け継がれている
0201	伝統的な町並みなどが大切にされ、蓄積 されている
0202	地域の資源が発掘され、つながり、連携が強まっている
主要手段 3	優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる
0301	優れた文化芸術に身近に触れられる環境が整っている
0302	文化芸術による交流が盛んになっている
主要手段 4	多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている
0401	多様性がまちの活力の源泉になっている
0402	さまざまなつながりの中に、それぞれの役割が用意されている
主要手段 5	内発型の地域産業がすくすくと育っている
0501	地域産業が切磋琢磨し、新たな道を切り拓いている
0502	豊岡ブランドが構築されている
主要手段 6	子どもたちが豊岡で世界と出会い、地域への愛着を育んでいる
0601	子どもたちが豊岡で世界と出会う機会がまちに満ちている
0602	子どもたちがさまざまなコミュニティの一員として役割を果たしている

上位目的：この基本構想において長期的に実現したい状態（まちとしての長期目標）。

戦略目的：この基本構想において12年間で達成したい状態（中間目標）。

主要手段：戦略目的を実現するための主要な手段（2桁）

※ 4桁番号の手段は、主要手段を実現するための具体的な手段

第4章 まちの将来像実現に向けた基本姿勢

1 受け継いできたものを磨く

これまで受け継いできた地域固有の自然、歴史、伝統、文化、産業などの資源を大切にし、つなげ、磨きをかけて世界で輝かせます。

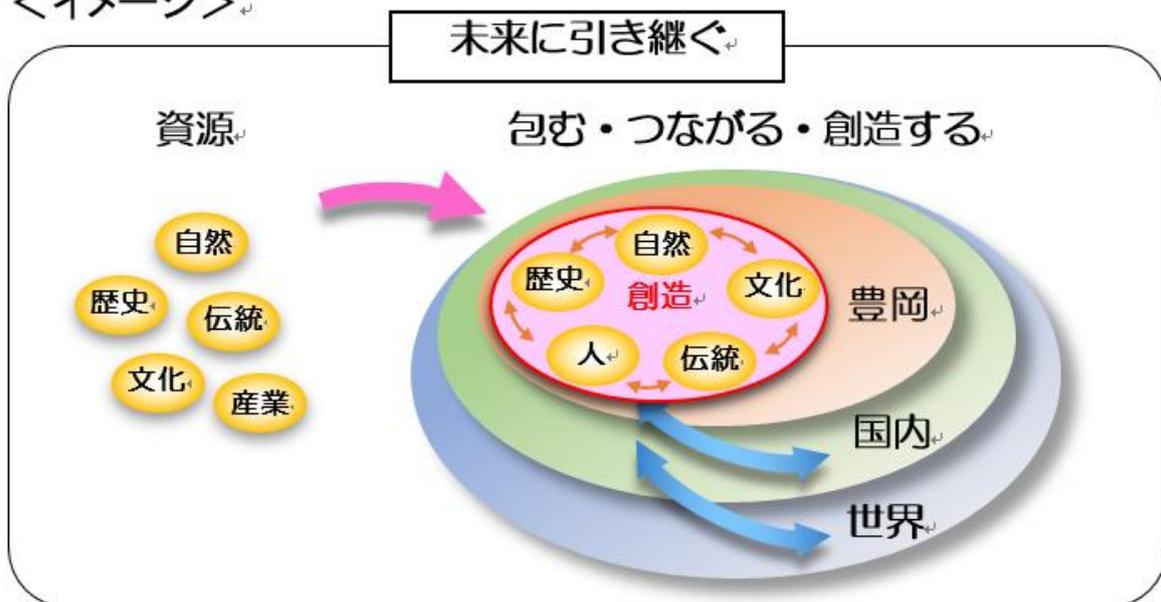
2 多様性を受け入れ、折り合いをつけ、新たな価値を創造する

全ての人々が支え合いながら、自分らしく活躍し、暮らすことができるまちづくりを進めるとともに、地域の自然、歴史、伝統、文化や多様な人々と積極的につながり、新たな価値を生み出し、世界で輝くまちづくりを進めます。

3 豊岡らしさを未来に引き継ぐ

受け継いできたものを守り、育て、世界で輝くまちを次の世代につないでいきます。

<イメージ>



第5章 小さな世界都市の実現に向けた主要手段

1 自然との共生が徹底されている

自然の脅威も恵みも、同じ自然がもたらすものです。私たちは、自然を畏れ、敬い、感謝し、理解しながら、自然に抱かれて生きるまちを創り上げていく必要があります。

(1) 災害に備え、地域の防災力が高まっている

豊岡市が災害列島に置かれていることを認識し、自然災害に対する危機意識を高めなければなりません。

私たちは、平成16年(2004年)の台風23号をはじめとする過去の災害の教訓を踏まえ、「みんなの力で命と暮らしを守る」ことを理念に、防災・減災対策に取り組んでいます。災害は必ず起きることをリアルに想定し、減災の考え方に立ち、自助、共助、公助により、まち全体の災害対応能力を高めていきます。

(2) 自然と折り合う暮らしがまちに根付いている

私たちは、一度は日本の野外で絶滅したコウノトリをシンボルに、「コウノトリも住める」豊かな環境を創造する取組みを進めてきました。

コウノトリ育む農法や湿地再生事業等の取組みにより、コウノトリが飛び交う風景を取り戻すことができました。その取組みは、世界でも稀な成功例として評価を受けています。しかし、豊かな自然環境を取り戻すには、なお長い時間とエネルギーが必要です。

地球温暖化対策には、地域からの貢献も不可欠です。なぜなら、環境問題は、単に社会や経済の構造だけではなく、人々のライフスタイルにも起因するからです。

豊岡市の自然環境に適合したまちづくりとライフスタイルを確立する取組みをさらに積極的に進めていきます。

(3) 環境と経済の共鳴が広がっている

私たちは、環境を良くする取組みによって経済が活性化し、経済の活性化が誘因となって環境を良くする取組みがさらに広がる環境と経済が共鳴する関係を環境経済と名付け、その実践を広げる「環境経済戦略」に取り組んできました。

この戦略は、①環境を良くする取組み自体の持続可能性を確保し、②地域の経済的自立を図り、③自らの誇りにつなげることを狙いとしています。

世界各地で環境保全活動が経済的利益と衝突し、ときに挫折する中で、豊岡市の環境経済戦略の取組みは、世界のモデルとなる可能性を持っています。

今後も、市民、企業、団体、行政などのさまざまな主体がお互いに知恵を出し合い、協働しながら、この取組みを強力に推進し、豊かな環境の保全と経済活性化の両立に挑戦していきます。

2 地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、受け継がれている

(1) 伝統的な町並みなどが大切にされ、蓄積されている

グローバル化の進展で、世界は急速に同じ顔になりつつあります。逆にローカルであること、地域固有であることが世界で輝くチャンスにつながります。

グローバル化の進展で、世界は急速に小さくなりつつあります。インターネットの発達等によって、豊岡市のような小さなまちでも、世界の人々と直接つながることが可能になってきました。

同時に私たちは、世界に通用する質の高い「ローカル」を磨いていかなければなりません。

私たちは、大正14年（1925年）の北但大震災で壊滅的な被害に遭った城崎温泉の復興に当たり、再び木造三階建ての町並みを復活させ、出石の伝統的建造物群保存地区の取り組みを進め、近年では、近畿に現存する最古の芝居小屋「出石永楽館」を復活させてきました。

逆磁極という地球科学上の大発見がなされた玄武洞を拠点とする山陰海岸ジオパーク、竹野の焼き杉板の町並みやジオカヌーの取り組み、日高における神鍋高原や植村直己の精神を引き継ぐ冒険教育の取り組み、但東の美しい田園景観や安国寺・ドウダンツツジなどが、まちの大きな魅力となり、国内外から多くの来訪者を迎えています。

資源とチャンスは、私たちの足元にあります。

(2) 地域の資源が発掘され、つながり、連携が強まっている

インバウンドの増加の中で、名所旧跡のみならず、その地の人々にとって「普通」の景観や暮らしぶりが人々を惹きつけるようになってきました。私たちは、自然、歴史、伝統、文化など受け継いできたものの中に、新たな資源を見出すことができるはずです。

個々の資源がつながることにより、新たな価値を生み出すことができます。

合併によって、豊岡市の有する資源は飛躍的に増えましたが、十分につながっているとは言えません。来訪者の市内での滞在日数と時間を増やすためにも、地域固有の資源をさらに磨き、関係者相互のつながりを強化することは極めて有効な方策です。

官民共同で設立した一般社団法人豊岡観光イノベーションを中心に、市内外の事業者や組織とも連携し、市内にあるさまざまな資源を発掘し、組み合わせ、まちの魅力を世界へと発信していきます。

3 優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる

(1) 優れた文化芸術に身近に触れられる環境が整っている

城崎国際アートセンターには国内はもとより、世界中から優れたアーティストが滞在制作を目的に続々とやってくるようになりました。

出石永楽館では毎年永楽館歌舞伎が上演されて好評を博しています。

「豊岡で子どもたちが世界と出会う音楽祭（おんぷの祭典）」は、市民と行政が協働して世界で活躍する音楽家を招き、子どもたちに優れた音楽に触れる機会を提供する取り組みとして定着しつつあります。

子どもたちが文化芸術のセンスを身に付けることは、豊かに生きていくうえで極めて重要です。

市民の心の豊かさやまちの魅力を高めるため、アーティストを積極的に受け入れ、文化芸術を創造し、誰もが文化芸術に気軽に触れ合え、楽しむことができるまちを創り上げていきます。

(2) 文化芸術による交流が盛んになっている

文化芸術と観光は、親和性が高いと言われています。

城崎では、演劇、ダンスなどの舞台芸術と観光を融合させた世界最先端のパフォーミングアーツ・ツーリズム（※）の取り組みが始まり、永楽館歌舞伎も全国から人々を集めています。

また、私たちのまちには、古くから受け継がれてきた伝統芸能、祭などの伝統行事があり、人々を惹きつける大きな魅力となりえます。

観光は、まちと来訪者との総合コミュニケーションであり、優れた文化芸術は、まちのコミュニケーション能力を高め、まちの魅力を向上させます。

文化芸術と観光の融合による交流人口の拡大を図りながら、大交流の実現をめざしていきます。

※ 演劇、ダンス等の舞台芸術の創作及び芸術家と交流するツーリズム

4 多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風がまちに満ちている

(1) 多様性がまちの活力の源泉になっている

豊岡市は、障がいの有無、性別、年齢差、国籍の違い、価値観・文化・習慣の違い等、多様な人々から成っています。その傾向は、グローバル化の進展の中で、今後さらに急速に進んでいきます。私たちは、いのちへの共感に基づき、その違いを受け入れ、理解し、ともに生きていく努力を重ねる必要があります。

それだけではありません。まちや組織の中に多様な人々がいて、対話を通じて共感を育みながら違いを乗り越えていく習慣が根付けば、まちや組織の活力の源になります。

同時に、多様性の存在は、グローバル化や人工知能等の普及による社会経済の急激で劇的な変化が予測される中であって、まちや組織にとって不可欠の要素となります。

互いの存在を当然のこととして大らかに受け入れ、折り合いをつけながら共生するまちを教育、社会、経済、文化等の活動の中で築いていきます。

(2) さまざまなつながりの中に、それぞれの役割が用意されている

人は、**支え合いなし**には生きていくことができません。そのことを私たちは、平成 16 年（2004 年）の台風 23 号災害をはじめ、各地のさまざまな災害の中で実感し、学びました。

つながりの中には役割があります。役割は他者からの期待であり、自身の存在意義を確認できる重要な機能を果たします。

そのような観点に立って、コミュニティセンターを拠点とする地域コミュニティ組織の活動を支援するほか、地域や図書館、文化芸術関連施設、行政庁舎等さまざまな場所において、障がいの有無、性別、年齢差、国籍の違い、価値観・文化・習慣の違い等に関わらず、人々をつなぎ、居場所と出番を提供する仕組みや取組みを進めます。

5 内発型の地域産業がすくすくと育っている

(1) 地域産業が切磋琢磨し、新たな道を切り拓いている

近年、地域経済を「庭」、地元の中小企業を「植物」に見立て、地域という土壌を生かして地元の中小企業を大切に育てることにより地域経済を活性化させる「地元企業が成長する環境づくり」が注目を集めています。

企業家精神に富んだ中小企業の活動が活発になることで、地域内の企業活動への相乗効果を生み出すことができます。

起業や既存産業の高度化等の挑戦を促すため、商工業団体、金融機関、行政等が協働して、市場や地域ビジネスに関する情報の提供、技術力の高度化支援、企業間ネットワークの構築支援など、地域産業活性化のための環境整備を進めます。

とりわけ、若者が失敗を恐れずに新たな事業に挑戦できる環境整備に努めます。

(2) 豊岡ブランドが構築されている

コウノトリ育む農法を実施してきた人たちのたゆみない努力により、平成 28 年（2016 年）、コウノトリ育むお米が日本最大の食味鑑定コンクールで日本一に輝きました。コウノトリ育むお米は、ブランド米として、国内はもとより世界に販路が拡大されようとしています。

豊岡靴も、かつて激しい価格競争の中で衰退の道を歩んできましたが、近年、豊岡ブランドの構築によって活力を取り戻しつつあります。グローバル化が進展し世界市場での競争がさらに激化する中で、企業のコスト削減努力は当然ですが、地方の中小企業にとっては、価格競争に身を委ねることは必ずしも得策ではありません。

観光においても、地産地消の推進やサービス水準の向上を通じて高付加価値化を図り、収益力を強化する必要があります。

コウノトリという環境シンボルを持つ豊岡市において、環境経済戦略も豊岡ブランド構築の可能性を秘めています。

市内産業や農業等の高付加価値化による収益力の強化によって労働者側への分配が高まれば、豊岡市で働くことの価値が上がり、優れた人材確保にもつながります。

企業や業界等と行政との対話を通じて、さまざまな分野で豊岡ブランドの確立を進めます。

6 子どもたちが豊岡で世界と出会い、地域への愛着を育んでいる

(1) 子どもたちが豊岡で世界と出会う機会がまちに満ちている

ふるさと教育、英語教育、演劇的手法によるコミュニケーション教育の三つを柱とする「ローカル&グローバル学習の時間」の取組みを進め、世界中からやってくる人々に対し、ツールとしての英語を活用し、自分のまちに誇りを持って、表現力豊かにコミュニケーションをとる子どもたちを育てます。

その中で、性別や年代を超えて、対等な関係の中で自分を主張し、また他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力を育成します。

(2) 子どもたちがさまざまなコミュニティの一員として役割を果たしている

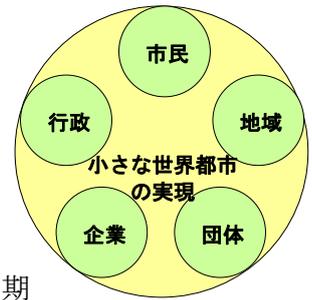
社会や技術の変化がさらに加速し、身に付けた知識や技術が急速に陳腐化していくことが予測される中で、「取り換え不可能な」存在として自らの存在意義を実感できる場—コミュニティを持つことができるように、子どもたちがまちの中でさまざまな役割を持ち、果たすことができる機会を提供します。

第6章 まちづくりの進め方

1 対話による新たな価値の創造—ともにまちを創る—

小さな世界都市を実現するためには、行政だけではなく、市民、企業、団体などの多様な主体の力を結集して取り組む必要があります。

市民、企業、団体と行政は、単なるサービスの利用者と提供者、あるいは要望する側と受ける側という関係にとどまらず、目標の実現に向けて何ができるのかをともに考え、協力し、一体感をもって取り組んでいくことが大切であり、そのことにより大きな効果を生むことが期待できます。



このような協働のあり方を実現するため、豊岡市では、「戦略的政策評価」という手法を用いて、関係市民や行政の「対話」と相互理解により、成果を上げるための作戦の組み立てや見直しを行っています。

例えば、「安全・安心のまちづくり」の分野について、市民とのワークショップの中で、「災害に備え、地域の防災力を高める」ことを共通の目標に掲げ、その実現にどのような対応が必要かという「対話」により、新たなアイデアや当事者意識が生まれ、目標の実現に向けて一緒に取り組む意識が高まってきました。このワークショップからはじまった市民総参加訓練や、自主防災組織 357 区中 322 区で防災訓練が実施され、前年より 188 区の増加がみられることから、防災意識は確実に高まっています。

このほかにも、将来を担う人材を育成することを目的にした「稽古堂塾」では、金融、旅館、介護、農業関係など幅広い分野から人材が集い、官民を越えたネットワークづくりを行っています。地方創生総合戦略では、宿泊・靴・農業などの分野で、関係業界と行政が対話しながら人材確保やそのための体質改善を図る取組みが始まっています。

人口減少によって各行政区の自治機能が弱まることが見込まれる中、地域と行政がその対策について平成 25 年度（2013 年度）から議論をはじめ、平成 29 年（2017 年）4 月、これまでの地区公民館の範囲で地域コミュニティ組織が住民自治を推進する仕組みが市内で一斉にスタートしました。

以上のように、既にさまざまな形で協働の取組みが始まっています。

まちの様々な課題に対し、関係者が当事者意識をもって対話を重ね、共感を育み、協働して解決に当たることによって、より大きな力が生まれ、新たな価値が創造されます。

その認識の下、この基本構想に掲げた「小さな世界都市」を実現するために、市民、地域、企業、団体、行政等が対話を重ね、まちづくりを進めていきます。

2 施策の戦略的推進

前章に記載した小さな世界都市の実現に向けた主要手段に基づき、「市政経営方針」で、戦略的に進める施策を具体化するものとします（条例第 7 条）。

第7章 市民の暮らしを支える施策の体系

市政は総合的に行われるべきものであることを踏まえ、「豊岡市総合計画（計画期間：平成19～29年度）」の体系に基づき、市民の暮らしを支える施策を総合的に推進します。

1 安全に安心して暮らせるまち

市民の安全を守り、安心しておだやかに暮らせるまちを創るとともに、保健、医療、福祉が連携する「安全に安心して暮らせるまちづくり」を進めます。

2 人と自然が共生するまち

豊かな環境を保存・再生・創造し、次代に引き継ぐため、広い視野と新たな発想により「人と自然が共生するまちづくり」を進めます。

3 持続可能な「力」を高めるまち

まちに活力と賑わいをもたらすため、定住環境、広域交流基盤、都市基盤の整備などを進め、若い力が発揮できる「持続可能な「力」を高めるまちづくり」を進めます。

4 未来を拓く人を育むまち

次代を担う子どもたちや地域を支える人たちが、ふるさとへの誇りと愛着を感じられる「未来を拓く人を育むまちづくり」を進めます。

5 人生を楽しみお互いを支え合うまち

日々の暮らしを楽しみ、お互いを思いやり支え合うことができる社会をつくるため、「人生を楽しみお互いを支え合うまちづくり」を進めます。